

|      |                                |      |        |
|------|--------------------------------|------|--------|
| 応募者名 | デジタルシティ松本推進機構                  | 分野   | その他    |
| 取組名称 | デジタルシティ松本推進機構～「デジタルシティ松本」のシンカ～ | 取組地域 | 長野県松本市 |

| 概要               |                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 取組内容             | デジタルシティ松本推進機構（DigiMAT）は、松本市が掲げる「人口定常化」を目指し、令和5年4月に産学官で設立した団体で、デジタルの領域に強みを持つ民間企業、地域DXに力を入れている信州大学、行政機関として松本市、長野県、国の機関等で構成している。地域のイノベーション創出に向け、市民が実感できるデジタルサービスの創出を行っており、設立から1年半でデジタルプロジェクトを6件組成し、メタバースによる地域活性化、ドローン物流、3DCGの産業育成、デジタル人材育成など、地域の課題解決や新たな価値の創造に向けた取り組みを行っている。 |
| 実績や効果            | ・プロジェクトの創出：0→6件 【効果】企業の松本市への参入機会を創出 ・サービス創出に関わる地元企業数：0→8社 【効果】味噌のアソート販売等、地元企業の新たな事業創出 ・イベント動員数：0→延345人 【効果】市民の新たなつながりが生まれ、自主的な市民活動化、不登校生徒がクリエイターとして活躍 等                                                                                                                   |
| 取組全体を通じて訴えたいポイント | DigiMATでは、「行政だけでは不可能」「民間企業だけでは不可能」といった課題に対し、それぞれの強みを持ち寄り、地域のポテンシャルや強みを生かした価値創造を行っている。単なる技術提供ではなく、未来の持続可能な都市モデルを構築し、地域をシンカさせるエンジンとして機能し続ける役割を追求している。                                                                                                                       |

| 詳細                   |                                                                                                                                                       |
|----------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 地域の課題解決・魅力向上         | DigiMATは、「大都市並みに仕事ができ豊かに暮らせるまち」等のvision実現に向けて、デジタルに強みを持つ会員企業が地元企業や市民とともにプロジェクトを推進している。その結果、産学官の新たな連携の創出、地元企業の新たなビジネス創出、中～大学生の若手クリエイターの活躍・発掘が実現している。   |
| 独自性・先進性              | 松本市に想いのある民間企業が会員となり少数精鋭で取り組んでいる。そのため、それぞれの会員の主体性が高く、実行力とスピード感のある活動につながっている。実際、会員企業の中には、毎週東京圏から松本市を訪れる等、地域との密なコミュニケーションを図り、プロジェクトの着実な実行に取り組んでいる。       |
| 持続性・発展性              | 会員企業のサービス自走を目指し、HOP（調査研究）、STEP（社会実証）、JUMP（実装）の段階的な支援を行っている。ある企業にヒアリングした結果、「新規事業の見極めには少なくとも1年半は必要」と確認した経過もあり、そのような声に寄り添い、自走できるサービスを創出する仕組みを提供している。     |
| 他地域への横展開             | DigiMATの枠組みはもちろん、個別プロジェクトにおいても、分野を限定せず、地域の課題に寄り添ったものとしており、他分野、他地域に展開が可能である。また、実際に価値を享受する地元企業や市民が活動に参加し、有益なサービス創出が行われている。関連イベントには、他地域の企業、行政関係者も多く参加する。 |
| 取組を進めるうえで苦勞した点       | DigiMATの設立初年度は、スピード感が求められる中、運営、制度設計、事務フロー等、すべてが初めてで困惑することもあったが、先進自治体の取り組みを参考にしながら、DigiMATの目的を明確にし、地域の特徴を産学官でSWOT分析する等、独自の方向性や課題を明確に持ち運営してきた。          |
| 取組の成果を上げることが出来た秘訣・工夫 | DigiMATでは、月1回の運営委員会の開催。月10回以上の定例会やデザイナーとの会議でプロジェクト推進。全会員の交流を目的に活動報告会の開催。このように対話を密に重ね、会員が同じ方向を向いて活動している。また、産学官の会員が互いに運営上の課題を持ち寄り議論を交わす等の運営上の工夫も行っている。  |
| 今後の展望                | DigiMATのより持続的な経営体制の検討を行う。また、デジタルサービス創出に加え、地元志向で価値を生み出すデジタル人材の育成を行い、更なる地域のイノベーション創出、スタートアップ創出に力を入れる。「デジタルシティ松本」をシンカさせ、若者と女性から選ばれるまちの実現に取り組む。           |